

科目名	教育相談						
科目名(英)	educational consultation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高巢明子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医療機関において カウンセラーとして勤務		
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	カウンセリングやコミュニケーションの知識と技術について、以下2点の学習を通して学ぶ。 ①自分自身について考え、自己理解を深める。 ②他者との関わりを体験し、援助的な対話の技術や態度・理論を追求する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					カウンセリングやコミュニケーションの知識や技術について、説明することができる。	
		○				カウンセリングやコミュニケーションの技術を活用できるようになる。	
				○		人と積極的に関わり、他者に配慮する姿勢をもつことができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	「子育て支援カウンセリング」石川洋子編／図書文化 「心理学理論と心理的支援」社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	プレゼンテーション			プレゼンテーションの練習		
	2	プレゼンテーション			講義内容の復習・課題		
	3	自分を知る「コミュニケーションの傾向」			講義内容の復習・課題		
	4	自分を知る「コーチング」			講義内容の復習・課題		
	5	自分を知る「ストレス・マネジメント」「アンガー・マネジメント」			講義内容の復習・課題		
	6	自分を知る「アサーション」			講義内容の復習・課題		
	7	カウンセリングの技術「アイ・コンタクト」			講義内容の復習・課題		
	8	カウンセリングの技術「表情」			講義内容の復習・課題		
	9	カウンセリングの技術「ジェスチャー」			講義内容の復習・課題		
	10	カウンセリングの技術「態度」			講義内容の復習・課題		
	11	カウンセリングの技術「聴く」			講義内容の復習・課題		
	12	カウンセリングの技術「伝える」			講義内容の復習・課題		
	13	受容と共感			講義内容の復習・課題		
	14	子育て支援			講義内容の復習・課題		
15	まとめ			レポートの作成			
評価方法	(1)確認テスト、レポート (2)実技試験 (3)課題・発表・取り組みの姿勢 以上を下記割合により点数化して評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト・レポート	◎	◎		○		40%
	実技試験		◎		○		30%
	課題・発表・取り組みの姿勢		○		◎		30%
履修上の注意							

科目名	乳幼児心理学						
科目名(英)	baby/child psychology						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	高巢明子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	医療機関において カウンセラーとして勤務		
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	①乳幼児の心理を学び、未来の子ども達に適した心の発達とは何かを考える。 また、保育・幼児教育から初等教育への接続と連携を意識し、実践に活かす方法を考える。 ②日常の保護者との関わり方を事例を通して学ぶ。 養育困難をかかえる保護者や障害・精神疾患のある保護者の理解と対応を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				乳幼児の心理や発達上の問題について、説明できる。	
		○				児童期を見据えた保育が実践できるようになる。	
	○	○				保護者の心理や子育ての環境について、説明できる。	
		○				保護者の心を支える子育て支援が実践できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	乳幼児心理学／宮原和子他著／近畿大学九州短期大学 心理学理論と心理的支援／社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規 子育て支援カウンセリング／石川洋子編／図書文化						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	心を育てる関わりー感情・情緒				講義内容の復習・課題	
	2	心を育てる関わりーアタッチメント、反応性愛着障害				講義内容の復習・課題	
	3	児童期を見据えた関わりー幼保小連携				講義内容の復習・課題	
	4	気になる子どもとの関わりー問題行動				講義内容の復習・課題	
	5	気になるこどもとの関わりー発達障害				レポート作成	
	6	日常の保護者との関わりー事例検討				講義内容の復習・課題	
	7	気になる保護者との関わりー養育困難				講義内容の復習・課題	
	8	気になる保護者戸の関わりー障害・精神疾患				レポート作成	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験として、筆記試験を実施する。(2)レポート・課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	レポート・課題	○	◎				50%
履修上の注意							

科目名	GCB II						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	岩田 佐知子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども保育科2年						
授業概要	1.充実した人生を送る人たちの考え方にたくさん触れる 2.力のある端的なメッセージにたくさん触れる 3.歴史、世界の動き、日本の課題、若者の意識などのデータやk情報と向き合う 4.先輩やクラスメイトたちの考え・意識に触れ、自分自身を振り返る						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		考えることの大切さを知る	
	○			○		自分の言葉で伝える大切さを知る	
	○			○		目標の大切さを知る	
	○			○		行動する大切さに気づく	
テキスト・教材 参考図書	GCB II テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1講座グローバルシティズンと志～志とは何か。			GCB II を読んでくる。レポート提出。		
	2	第2講座なぜ志を立てることが大切なのか。			GCB II を読んでくる。レポート提出。		
	3	第3講座自己を知る			GCB II を読んでくる。レポート提出。		
	4	第4講座伝える力を学ぶ			GCB II を読んでくる。レポート提出。		
	5	第5講座伝える力を学ぶ			GCB II を読んでくる。レポート提出。		
	6	第6講座先人に学ぶ			GCB II を読んでくる。レポート提出。		
	7	第7講座自己の大切さ			GCB II を読んでくる。レポート提出。		
	8	第8講座GCB IIを受講して、私が感じたこと、気づいたこと、学んだこと			GCB II を読んでくる。スピーチの準備。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題でレポートを作成し提出する(8回) (2)グループワークに参加し自分の考えを発現する(グループワーク時) (3)3分の2以上のの出席をすること。 成績評価はR評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○			○		50%
	取り組み態度				○		50%
履修上の注意	レポートを最後まで丁寧な文字で書くこと。他者の意見を尊重し、自分の考えを伝えること。						

科目名	パソコン実習						
科目名(英)							
単位数	1.5	時間数	22	担当者	平野 久美子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	Excel、PowerPointの基本操作から学び、表計算、プレゼンテーションについて、知識を習得していく。複数のアプリ間でのデータを共有し、応用できる力を身に付け、実践的に役立てていけるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					Excel、PowerPointなどを使用し、データ管理やプレゼンテーションを作成することができる	
		○				練習問題を解くことによって理解度を確認し、処理、作成ができる	
			○			ブラインドタッチを習得し、10分間で300文字以上の入力ができる	
				○		用途に応じて適切なソフトを使用し、報告書の作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	・FOM出版 よくわかるWord2016&Excel2016&PowerPoint2016 改訂版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Excelの概要・起動・画面構成・データ入力・オートフィル機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	関数・絶対参照・表の書式・行や列の操作・印刷			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	グラフ機能の概要・円グラフ・縦棒グラフの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	データベース機能の概要・データの並べ替え・抽出・条件付き書式			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	アプリ間でデータを共有しよう			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	PowerPointの概要・起動・画面構成・新規作成・スライド・画像の挿入			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	SmartArtの作成・スライドショーの実行・画面切り替え効果・アニメーションの設定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	総復習			後期試験を実施するので、総合問題で復習します		
	9	試験(実技・筆記)					
	10	課題作成			実習報告書をPowerPointで作成するための資料収集と課題を作成します		
	11	課題作成			実習報告書をPowerPointで作成するための資料収集と課題を作成します		
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)課題を作成し発表する。(3)定期試験(実技・筆記)を実施する。以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満とする)。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	小テスト		○				15%
	発表・作品		◎		○		20%
	タイピング			○			15%
履修上の注意							

科目名	教育実習指導(後期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	岩田 佐知子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が円滑に有意義に行われるように、教育実習に関わった基礎的な知識の理解を深めていく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		教育実習のに向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎知識を理解する。	
	○	○		○		記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。	
	○	○		○		「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	・同文書院 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育園・児童福祉施設等実習ガイド ・近畿大九州短期大学 幼稚園実習事前指導						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自主実習の振り返り					
	2	設定保育①					
	3	設定保育②					
	4	設定保育③					
	5	設定保育④					
	6	実習前面接					
	7	実習の心構え、記録の書き方、オリエンテーションについて、書類・記録簿ファイリング					
	8	実習準備					
	9	実習の振り返り					
	10	保育実技(エプロンシアター作成)					
	11	保育実技(エプロンシアター作成)					
	12	保育実技(エプロンシアター発表)					
	13	評価替えし					
	14	2年次実習の振り返り、3年次じっしゅうについて(スケジュール確認)					
15	2年次実習の振り返り、3年次じっしゅうについて(反省)						
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施なし。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)実技試験を実施する。 (4)実習評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習評価	○	○		○		50%
	宿題・レポート	○	○		○		20%
	発表・作品	○	○		○		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、実技試験の受験資格を与えない。						

科目名	権利擁護と成年後見制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	島 京子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども保育科2年						
授業概要	相談援助活動と法との関わりについて学ぶ。相談援助活動において必要となる成年後見制度(後見人等の役割を含む)について学ぶ。社会的排除や虐待等の権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		相談援助活動と法との関わりについて理解できる。保育の意義について理解する。	
	○	○		○		成年後見制度について理解できる。保育の内容と方法の基本について理解する。	
	○	○		○		社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症等の日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解できる。育の思想と歴史的変遷について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座「権利擁護と成年後見制度」における(中央法規出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	日本国憲法 人権			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	日本国憲法 統治機構			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	行政法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	民法 財産法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	民法 家族法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	成年後見制度 法定後見①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	成年後見制度 法定後見②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	成年後見制度 任意後見			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	日常生活自立支援事業			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	成年後見制度利用支援事業			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	権利擁護に関わる組織・団体			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	権利擁護に関わる専門職の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	成年後見活動の実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	権利擁護活動の実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	まとめ・振り返り			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2)宿題・レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	公務員講座A(自由選択)						
科目名(英)	Public Officer Test Training						
単位数	1単位	時間数	8コマ	担当者	科目別担当者		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年							
授業概要	公務員試験に出題される科目(社会科学、数的推理、判断推理)について、出題傾向を分析し、頻出分野に絞った授業を行う。また過去に出題された問題を用いた演習を行い、知識やスキルの定着を図る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					公務員試験に出題される知識系科目の用語や仕組みについて学び、説明することができる。	
	○	○				公務員試験に出題される知能系科目の解法を学び、説明することができる。	
		○				授業で学んだ知識を応用して、過去に出題された公務員試験及び類似問題を解くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート出版 ASO流”絶対”合格シリーズ 速習テキスト 準備編 ・オリジナルレジュメ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 政治①(三権分立、国会の権限) 判断推理①(対応関係)			授業終了後、該当範囲の類似問題を解いておくこと		
	2	経済①(需要と供給) 数的推理①(速さ)			授業終了後、該当範囲の類似問題を解いておくこと		
	3	政治②(国会の種類、議決方法、衆議院の優越) 判断推理②(試合と勝敗)			授業終了後、該当範囲の類似問題を解いておくこと		
	4	経済②(金融) 数的推理②(濃度)			授業終了後、該当範囲の類似問題を解いておくこと		
	5	政治③(内閣) 判断推理③(順序関係)			授業終了後、該当範囲の類似問題を解いておくこと		
	6	経済③(予算と租税) 数的推理③(仕事算)			授業終了後、該当範囲の類似問題を解いておくこと		
	7	政治④(裁判所) 判断推理④(展開図)			授業終了後、該当範囲の類似問題を解いておくこと		
	8	経済④(公債、財政の機能) 数的推理④(三角形と多角形)			授業終了後、該当範囲の類似問題を解いておくこと		
評価方法	出席状況(規定出席率3分の2以上の要件を満たすこと)および課題提出で評価する。 評価はR評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○			○		50%
	出席状況				○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	こどもの食と栄養						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	久保由紀子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども保育科2年						
授業概要	以下の事項について基本的理論を体系的に理解するとともに、保育の実際との関連から、その知識を実践的に学ぶ。子どもの健康と食生活の意義、栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活、妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活、幼児期の心身の発達と食生活、学童期・思春期の心身の発達と食生活、特別な配慮を要する子どもの食と栄養、障害のある子どもの食生活、児童福祉施設における食生活と栄養、食育の基本と内容・方法について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		小児栄養に関する知識を習得し、保育者として栄養に関する指導を実践できる。	
		○		○		保育に携わる者として、学生自身の健康管理のための食生活の見直し、健康的な生活を実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	①「子どもの食と栄養」二見大介・高野 陽 編著 ②「食品成分表」一般財団法人 日本食生活協会						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子どもの健康と食生活の意義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	栄養に関する基礎知識①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	栄養に関する基礎知識②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	子どもの発育・発達と食生活			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	幼児期の心身の発達と食生活			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	学齢期・思春期の心身の発達と食生活			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食生活			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	児童福祉施設における食生活と栄養、食育の基本と内容・方法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)出席状況・授業態度(私語・居眠りの有無)。(2)定期試験(筆記)。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況・授業態度				○		50%
	定期試験	○	○		○		50%
履修上の注意	出席が7回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	こどもの保健 I ①						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松下 明美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	こどもとはどういうものなのか、成人との違いを明確に知るために、こどもの成長、発達を各小児期ごとの段階をおって学習し年齢的特性を理解する。そのうえで保育者としてどのように社会的支援ができるか、また保育者の果たすべき役割は何かを考えていく。身体発育については正常を知り、評価をしていくことで異常についても専門的知識を深める。また生理機能、運動機能の基礎的な知識を学習していく。1~3項目ごとに小テストを行い復習と理解度の確認をする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					出生前を含むこどもの発育を知ることでこどもの健康保持、増進を説明できる。	
	○					こどもの成長、発達についての基礎知識を学び、概要を説明することができる	
		○				こどもの発育を観察評価することで疾患や発育障害について説明できる。	
	○					こどもの生理機能、運動機能についての基礎知識を学び子育ての社会的支援について説明できる。	
			○			こどもの特徴を知ることで発育過程にかかわる保育者としての役割を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	・ミネルヴァ書房 よくわかる子どもの保健 / 医歯薬出版 日本小児科学会編著 お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子どもの保健という学問			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	2	妊娠、出産(胎児期の発育と出生)			教科書の該当範囲を読んでおくこと・授業内容に係わる確認テストを実施するので復習しておくこと		
	3	身体発育と保健(発育の原則)			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	4	身体発育と保健(乳幼児の計測、身体発育の評価)			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	5	身体発育と保健(体重、身長)			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	6	身体発育と保健(頭囲、身長体重のバランス)			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	7	身体発育と保健(身体発育に影響する因子)			教科書の該当範囲を読んでおくこと・授業内容に係わる確認テストを実施するので復習しておくこと		
	8	生理機能の発達と保健(自律神経、水分代謝と発熱)			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	9	生理機能の発達と保健(体温、循環)			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	10	生理機能の発達と保健(循環、呼吸、心拍、血圧)			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	11	生理機能の発達と保健(消化吸収、睡眠)			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	12	生理機能の発達と保健(感覚器官、免疫)			教科書の該当範囲を読んでおくこと・授業内容に係わる確認テストを実施するので復習しておくこと		
	13	運動機能の発達と保健(新生児の運動機能)			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	14	運動機能の発達と保健(乳幼児の運動機能他)			教科書の該当範囲を読んでおくこと・授業内容に係わる確認テストを実施するので復習しておくこと		
15	運動機能の発達と保健(発達に影響する要因)			教科書の該当範囲を読んでおくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト	◎	○		○		30%
	宿題・レポート	○			○		20%
履修上の注意							

科目名	相談援助演習(2年次分)					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	島 京子	
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	こども保育科2年					
授業概要	相談援助に関わる知識と技術を理解し、実践的に修得することを目指す。そのために、相談援助の知識と技術に関わる他の科目との関連性も視野に入れつつ、総合的かつ包括的な援助、また地域福祉の基盤と開発に関わる具体的な相談援助事例を体系的に取り上げることにより、社会福祉士に求められる相談援助能力を養う。介護技術演習などを通じ、利用者理解を深め、関連分野との連携を深める					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
	○	○		○		
	○	○		○		
	○	○		○		
目標	相談援助の対象となる様々な実践モデルについて説明できる。					
目標	相談援助の過程とそれにかかわる知識と技術について説明できる。					
目標	相談援助の実際(権利擁護活動を含む。)について説明できる。					
目標						
テキスト・教材 参考図書	配布資料・生活支援の技術と環境整備(日本医療企画)・高齢者に対する支援と介護保険制度(中央法規)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	相談援助技法について①				
	2	相談援助技法について②			前時の復習をしておくこと。	
	3	相談援助技法について③			前時の復習をしておくこと。	
	4	相談援助技法について④			前時の復習をしておくこと。	
	5	利用者に生活を豊かにする方法を考える①			前時の復習をしておくこと。	
	6	利用者に生活を豊かにする方法を考える②			前時の復習をしておくこと。	
	7	利用者に生活を豊かにする方法を考える③			前時の復習をしておくこと。	
	8	利用者に生活を豊かにする方法を考える④			前時の復習をしておくこと。	
	9	事例を用いて、食生活と栄養について考える①			前時の復習をしておくこと。	
	10	事例を用いて、食生活と栄養について考える②			前時の復習をしておくこと。	
	11	人権について考える			前時の復習をしておくこと。	
	12	事例を用いて衣類の着脱支援について学ぶ①			前時の復習をしておくこと。	
	13	事例を用いて衣類の管理・清潔について学ぶ②			前時の復習をしておくこと。	
	14	事例を用いて環境整備について学ぶ			前時の復習をしておくこと。	
	15	まとめ・後期の振り返り				
評価方法	(①)宿題・レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	◎	◎			
	宿題・レポート	◎	◎		◎	
履修上の注意						

科目名	地域福祉の理論と方法						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	黒岩 淳		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	教科書を通して、地域福祉の歴史や理論の発展、行政と住民の協働システム、地域福祉のための組織、ソーシャルサポートネットワークの視点など地域福祉の基礎について学ぶ。特に、社会福祉基礎構造改革による、福祉の考え方の変化は重要な視点である。また、2008年3月の厚生労働省「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」による、地域における「新たな支えあい」は、これからの社会保障のあり方も含め、福祉分野で働くものにとって、根本的に身に付けたい考え方である。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					地域福祉の考え方について説明できる。	
	○					行政と住民の協働による支えあいの重要性について説明できる。	
	○					コミュニティソーシャルワークという概念を理解し、地域福祉におけるソーシャルワーカーの役割を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書「地域福祉の理論と方法」(中央法規) 別途配布するレジメや資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション&第5章 コミュニティソーシャルワーク④					
	2	第6章 住民の参加と方法①					
	3	第6章 住民の参加と方法②					
	4	第7章 ソーシャルサポートネットワーク①					
	5	第7章 ソーシャルサポートネットワーク②					
	6	第7章 ソーシャルサポートネットワーク③					
	7	特別講義:地域での子育て支援の実際			レポート提出を予定		
	8	第8章 地域における社会資源の活用・調整					
	9	第9章 地域における福祉ニーズの把握方法					
	10	第10章 地域トータルケアシステムの構築①					
	11	第10章 地域トータルケアシステムの構築②			宿題・レポート提出を予定		
	12	第11章 地域における福祉サービスの評価方法					
	13	第12章 災害支援と地域福祉					
	14	地域福祉についての考察					
15	まとめレポート提出						
評価方法	(1)授業への出席態度(出席率、私語・居眠りの有無等)。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験として、まとめレポートを実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業への出席態度	○			◎		30%
	宿題・レポート	○	◎				20%
	定期試験	○	◎				50%
履修上の注意							

科目名	福祉サービスの組織と経営						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども保育科2年						
授業概要	医療の発展、少子高齢化の到来等により、福祉サービスの新たなニーズが増加している。また、社会保障費の急激な増加、社会福祉関係従事者の増加(しかし利用者の増加に比すると、人手不足の分野が少なくない)など、わが国の社会福祉制度の根幹から改革しなければならない時代が到来している。このことを踏まえ、社会福祉士の業務は、従来の相談援助に特化した職務から、幅広く福祉サービスの仕事にかかわっていくことが期待されている。そのため、この科目では、施設の管理職としての、施設経営に携わっていくという中長期的視点から、経営感覚について学ぶ。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="checkbox"/>						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				経営感覚について整理し、実践しようとする事ができる。	
	<input type="radio"/>					関係職種について、業務を理解し、説明できる。	
	<input type="radio"/>					関係施設について理解し、説明できる。	
	<input type="radio"/>					措置→経営となった福祉業界における経営について説明できる。	
<input type="radio"/>					社会福祉法人について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座 福祉サービスの組織と経営 (中央法規)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	福祉サービスにおける組織・経営				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	福祉サービスと制度				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	法人、社会福祉法人				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	特定非営利法人、その他の組織や団体				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	戦略、事業計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	集団の力学に関する理論				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	サービスマネジメント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	苦情とリスクマネジメント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	人事・労務管理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	人材育成				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	社会社会福祉法人の経営と財務管理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	社会福祉法人における会計制度				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	高度情報社会の進展と変革する福祉サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	情報公開制度				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	単元の振り返り、確認テスト						
評価方法	(1)授業態度(出席率、私語・居眠りの有無)、(2)15回目の確認テストを下記の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				50%
	授業態度				<input type="radio"/>		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						